

# 福井県高P連 会報

発行人 福井県高等学校PTA連合会  
 (福井県生活学習館「ユニー・アイふくい」内) 後藤 正 邦  
 URL: <http://koupren-fukui.gr.jp/>



第61回音楽フェスティバル 合唱部門 合同演奏

## 福井県高P連研究大会

県高P連研究大会が十一月五日(日)、アオッサ八階県民ホールで開催されました。

開会式で、後藤正邦県高P連会長が「実践発表では、奥越明成高校と武生高校の地域や学校の特性、また歴史を生かしたPTA活動を学んでいただき、単Pの活動に活かして欲しいと思います。」



後藤正邦高P連会長

また、内田教授のご講演では、『働き方改革』が叫ばれる中、教職員の労働環境に焦点をあて、現場でどのような悩み、苦悩を抱えながら職務に精励しているかという現状を保護者の立場から学びたいと思います。本日の研究大会を通して、学校とどのように連携をとれば良いかを考えるきっかけにしてほしいと思います。」と挨拶をされました。



山本寛県教委副部長

続いて、福井県教育委員会の山本寛副部長が、全国産業教育フェアへの感謝に続き「県高P連と県教育長との懇談会では、今の高校生を取り巻く環境は大きく変容し大人も環境の変化に対応していかねばならない必要があること、生徒自ら個性を發揮し協力しながら乗り越え

る力を育むことが求められていることを感じました。また、県ではICTや探究学習といった新しい教育活動を推進しており、生徒はこれらを通して主体的に考える機会が増えてきました。しかし、どのように大人が関わっていけばよいか、まだまだ試行錯誤の段階であり、悩みが多い現状があります。我々がスクラムを組み協力し合うことが生徒たちのためになると思いますので、ぜひお力添えをいただきたい。」と祝辞がありました。



山崎良成校長協会会長

また、福井県高等学校校長協会会長の山崎良成藤島高校校長は祝辞の中で、『現在、高校は『探究学習』に取り組んでいます。一般教科の学習と異なり、保護者や地域の方々のご理解とご協力がないと深めていくことができません。しかし、『探究学習』は認知度も低く、各機関の協力を得ることが難しいのが現状です。また、探究をはじめとする高校での学びは我々の時代とは大きく変わっています。保護者の皆様には、ご理解とご支援をお願いします。」と話されました。

その後、『学校のリスクを見える化する―部活動改革から働き方改革まで―』と題して名古屋大学大学院教授の内田良氏の講演がありました。



講演講師 内田良氏

福井市出身の内田氏は、導入で福井弁を披露すると学生との距離が縮まることや、福井弁を自身の母親から、「全然慣れていない」とダメ出しされたエピソードを紹介するなど、講演は和やかなムードでスタートしました。

まずは、『教員の働き方をどう考えるのか』、現状を共有するため、数年前、休日開催の体育祭を市内一斉に平日午前中開催に変更したことを取材した時の、「教員の働き方改革ではなく、一番は子供の熱中症対策です。」と教員が答えたことを例に挙げ、「楽をしていると言われるのが怖い」、「子供のため」という理屈でしか喋れない」という苦しい現状を紹介されました。

長時間労働の被害者はここ数年で教員から子どもにも、また、教科担任や学級担任がいなくなる事態がすぐそこまでやってきていることを今は見えないようにしているだけと話されました。さらに、『子供のために』と無限の教育に有限の教員を充て『定額働かせ放題』の下、百時間を超える時間外労働を強い、そして倒れてきたリスクを直視し改善する必要があるとも話されました。

また、『部活動の地域移行』について

も、部活動の負担が大きいため地域移行する事は必要だが、まだ聞こえてこない議論である、どうダウンサイズするか、制度設計のなかった部活動にどう時間の上限を設けるか、また、上限の中の強化や活動をどうすればよいかを考えることが重要であると述べられました。

勉強や部活動を教えるのは教員の仕事、当たり前と思っていました。が、教員も一人の人間、親であることを認識する必要があります。また、教員も保護者も今一度考え方を換え、働きやすく、そして子どもたちも健やかに学ぶことができる環境づくりが大切であることも理解でき、大変有意義な講演となりました。



質疑応答

(科学技術高校PTA会長 生島直樹)

実践発表

奥越明成高校PTA実践発表

「奥越明成高校PTA活動について」



奥越明成高校 実践発表

嵐孝治PTA会長が発表しました。

奥越明成高校は、平成二十三年に大野東高校と

勝山南高校が統合し県内初の総合産業

高校として開校し、機械科・電気科・ビジネス情報科・生活福祉科生活コース、生活福祉科福祉コースの四学科二コースがあります。

PTAは、補導部・総務部・研修部に分かれ活動しています。九月下旬に行われる学校祭では、役員・評議員で焼き鳥などの模擬店販売を開催、例年生徒たちで賑わいます。

また、「学校活動環境整備基金」を設け、多額の経費が必要な大型備品購入、修繕、環境整備に充てています。これまで、組立テントや照明などを購入しています。生徒用のロッカー・下足箱の整備では、材料の実費のみ負担し、製作は機械科の生徒たちが担いました。

コロナ禍を経て、現在は活動を元に戻しつつあり、PTA同士のつながりを今一度もりあげていきたいと考えていますと発表されました。

武生高校PTA実践発表

「子どもたちのためのPTA活動」

宮本理PTA会長が発表しました。

武生高校は明治三十一年に開校、今年創立百二十五年目を迎えます。普通科と探求進学科がある進学校です。部活動では、インターハイに出場する山岳部が有名です。

PTAは、月に二回の役員会、年二回の代議員会を開催しています。

また各部に分かれての活動も盛んで、総務部は役員会など会議の運営、学校祭での飲料水配布・DVD作成を担当しています。進路部は学校と協力して様々な分野で活躍している卒業生を招いて「先輩と語ろう会」を開催、広報部はPTA便りを年三回発行しています。

環境部はマナーアップ(あいさつ)運動や環境美化活動、研修部はプロの講師を招いた講演会を年二回開催し、生徒とPTA会員がともに学んでいます。

今年度は、習慣に縛られず、愚直に子どもたちのために何ができるか、守っていくこと、変えていくこととは何かを考えPTA活動を進めていきたいと考えていますと発表されました。



武生高校 実践発表

(若狭高校PTA会長 岩崎正洋)

# 北信越高P連新潟大会

## 「輝く未来への飛躍」 しなやかな強さで生き抜く力

七月十四日(金)、十五日(土)の二日間、令和五年度北信越地区高等学校PTA連合会研究大会新潟大会が、北信越各県から八百十名が集い、本県からも百十名が参加して、新潟県民会館にて開催されました。

コロナ以前の制限のない方式の開催は四年ぶり、リアル開催の大切さが改めて実感できる価値のある大会でした。現代は、テクノロジーの進化によつて、あらゆるものを取り巻く環境が複雑さを増し、将来の予測が困難な状況にあることから、「VUCA(ブーカ)時代」と呼ばれています。「変動性」、「不確実性」、「複雑性」、「曖昧性」の四つは、まさに現代社会を特色づけているキーワードとも言えます。そんな絶えず変わりゆく社会の中で、戸惑いながらも懸命に生きてきた高校生たちが大きく飛躍し成長していくためには、デジタル技術の活用



開会式

による新しい教育や、多様な学びなど、新時代に即した環境と質の充実はもちろんのこと、子供たち自身が、豊かな心を持ちながら、柳のごとくしなやかな強さを持つて、

生き抜いていけるよう、共に連携を深める事をテーマに開催されました。

一日目の開会式では椎谷周平北信越地区高P連会長の挨拶の後、表彰状贈呈が行われ、PTA活動に功績のあつた三十三名が表彰され本県からは七名が受賞されました。その後、花角英世新潟県知事及び中原八一新潟市長から祝辞をいただきました。



受賞者の皆さん

### 福井県の栄えある受賞者

- 田中きよみ氏 県高P連副会長 勝山高校PTA会長
  - 水島 正芳氏 県高P連理事 藤島高校PTA会長
  - 松下 陽一氏 県高P連理事 丸岡高校PTA会長
  - 田口 聖氏 県高P連理事 武生東高校PTA会長
  - 河原 康徹氏 県高P連理事 美方高校PTA会長
  - 宇佐美嘉一氏 県高P連監事 羽水高校育成会会長
  - 姉崎 健司氏 県高P連監事 三国高校PTA会長
- (役職は令和四年度時)

式に続き、歓迎アトラクションとして、新潟県立新潟中央高等学校器楽・管弦楽部及びコーラス部の演奏が披露され、華やかに大会がスタートしました。その後、全体会が行われ、各県一校が以下の演題で発表されました。

- 長野県南安曇農業高等学校 「高校教育とPTA」
- 石川県立津幡高等学校 「津幡高校のPTA活動」
- 富山県立大門高等学校 「校則の見直しを通して家庭と学校の連携を考える」
- 新潟県立万代高等学校 「万代高等学校PTA活動〜この三年間の教育活動支援と今後の展望〜」



実践発表

福井県は、坂井高等学校が「生徒と学校を支援するPTA活動」を演題として、安久武志PTA副会長が、マイスター・ハイスクール事業の取り組みや主なPTA活動について発表されました。また、福井商

業高校、武生高校、若狭高校は誌上発表を行いました。どの発表も大変興味深い内容で、貴重な時間となりました。一日目の夜に開かれた教育懇談会では各県のPTAの方々と意見交換が活発に行われ、各県、各校の特色やPTA活動を知ることができました。



記念講演

大会二日目は、地元出身の俳優、高橋克実氏を講師に迎え、「僕が役者になった理由〜少年時代が育んだ映画やドラマへの憧れ〜」という演題で記念講演が行われました。巧みな話術で楽しく聴くことができました。特に、夢を持つ大切さを熱く語っていた事が印象に残っています。



山田博章 全国高P連会長



次年度開催県挨拶

閉会式では山田博章全国高P連会長の挨拶、次年度開催の松本正一長野県高P連会長の挨拶があり、再開を誓い閉会しました。

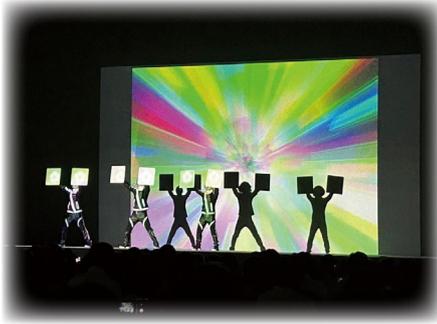
(羽水高等学校育成会会長 笠島慎一)

# 全国高P連宮城大会

## 「豊かな杜につむぐ虹の光」 しなやかな強さで生き抜く力

八月二十四日(木)、二十五日(金)に第七十二回全国PTA連合会大会宮城大会が「カメイアリーナ仙台」他五会場にて開催されました。全国から約六千四百名、福井県からは九十二名が仙台に集い、オンラインでは全国から二百四十七校、福井県二校が参加しました。新型コロナ感染症の分類が五類となり行動制限緩和の好影響やオンライン活用の定着により、多くの方が参加しやすい大会であったようです。

今大会は「子ども達がどんな人生の暗雲も切り拓いて、虹色に輝きながら、光差す未来へ力強く羽ばたいていく景色を共に創り上げていきましょう」と呼びかけ「豊かな杜につむぐ虹の光」しなやかな強さで生き抜く力」をテーマに開催されました。



アトラクション



開会式

大会一日目の午前には希望者参加の教育視察があり、午後から六会場にて「地域教育」「学校教育」「レジェンズ教育」「情報交換会」「防災・減災教育」「主権者教育」の分科会がありました。早くに定員に達した「学校教育」分科会

に参加された方は「ICTを活用して他者の意見を活用しながらの授業の様子や、情報・探究の学習内容など学校教育の現状が良くわかった。スクリーンを使いリアルタイムで質問を募集する形式は先進的でした」との感想でした。私は「地域教育」分科会に参加し、基調講演、パネルディスカッションを通して、子どもが社会とかわることで自己肯定感・自己効力感が高まる実践を拝見できました。「子どもが自分の選択が良かったと思える環境や、自分には何が出来るのかを探求する力を育む環境を地域と共に築くことの大切さ」を改めて感じました。  
大会二日目は開会式・表彰式がありました。本県からはPTA活動振興功労者表彰に二名、会長表彰個人の部に二名・団体の部に二名、役員表彰に一名が表彰されました

## おめでとうございます

PTA活動振興功労者表彰

- 齋藤 力 元高P連会長
- 小林 一朗 前高P連会長

全国大会会長表彰

- 佐々木貴幸 前高P連副会長
- 久我 泰文 前高P連副会長

団体

- 藤島高等学校PTA
- 敦賀工業高等学校PTA

役員表彰

- 井上 博之 前高P連会長



県内受賞者の皆さん

記念講演では、仙台育英学園高等学校硬式野球部監督の須江航氏の「伝わる言葉く失敗から学ぶ」と題しての話がありました。全国高等学校野球選手権大会において昨夏に優勝、今年には準優勝に導かれた監督のご講演と聞いて、参加者は熱心に聞き入っていました。甲子園での熱い闘いを終えてからわずか二日後、熱戦の余韻が

冷めやらぬ中でしたが、とても穏やかな口調が印象的でした。須江監督の信念である「人生は敗者復活戦」は、プレーヤーとしてよりグラウンドマネージャーとしての時間が長かった野球人生の中で得た経験や努力が育んだ名言であると感じました。

今後は、「人は毎日大きな改善や進化は出来ない。分度器に例えて、毎日一度ぐらいの進化の行動は出来る、その継続が大きな広がりとなる」との言葉を心に刻み、「子どもには失敗をさせること、大人・親も失敗をする姿もみせること、失敗にこそ再現性がある」を実践できるような日々を送りたいと思いました。「子ども・生徒は人生に彩りを与えてくれる存在。明日も真面目に頑張りますように」と締めくくりにエールもいただきました。本当に素晴らしい講演でした。

閉会式では、「歴史の町で変革を遂げた時代が目に入らぬか」をテーマに掲げる次回開催地茨城県へ全国高P連旗が引き継がれ閉幕しました。



閉会式

(金津高校PTA会長 梅田理香)

# キャリアガイダンス研修会

県高等学校PTA連合会主催のキャリアガイダンス研修会が九月九日(土)午後、福井県生活学習館(ユー・アイふくい)多目的ホールにおいて開催されました。今年はコロナ感染症が五類に引き下げられたこともあり、参加人数が百三十名程と大規模な研修会となりました。

初めに県高P連の後藤正邦会長が、「高校卒業後の進路が多様化し、生徒が社会のプラス面だけでなくマイナスの面(負の側面)への関りが増えてくる



後藤正邦高P連会長挨拶

関わりが増える。マイナス面に関わらないための対処法だけでなく、生徒が関わってしまった場合、保護者や教職員がどのように対処していくかについて、本日の研修会を参考にしたい。」と挨拶しました。

続いて、弁護士であり文部科学省消費者教育アドバイザーも務められている島田広氏を講師に「十八歳成年、消費者としての自立をどう支えるか」と題する講演が行われました。

最初に十八歳成年引き下げにより発生する消費者問題について、「親権の対象から外れて、本人が自由に契約できる」という点を話されました。その

ため更なる十八歳から十九歳の消費者トラブル増加も危惧されていましたが、この年齢での消費者トラブルはほぼ横ばいようです。

島田氏によれば、この年齢は消費者金融やクレジット会社の契約可能年齢に達しておらず、お金の出所が絞られてしまうために消費者トラブルが増加しないのであろうとの事でした。ただし、今後、契約可能年齢の引き下げなどが実施された場合はこの限りではないとの見解も述べられました。

近年二十歳から二十四歳でどのような消費者トラブルの相談が多いのかについては、「もうけ話」に関する相談が上位を占めるそうです。「もうけ



島田広氏講演

悪質商法に関するトラブルから自分を守る手段を若者達に伝えていくために、島田氏は契約について、旅行に例えて説明をされました。

旅行(契約)は「楽しく(大切に)役立つもの、しかし注意が必要なポイントがあり守らないと失敗や苦い思い出になることもある」であり、契約は「自分らしい人生を送るための必須のツール」だという事を伝える事が大事だと話されました。(※私自身、十八歳成年と契約の大事さを自分の子どもに伝える方法を悩んでいたところでも参考になりました。)

十八歳成年により未成年者取消権を失い、親が子どもの契約トラブルから守ることが出来なくなります。そのためにも契約に関する知識を確実に伝える



話」に加え「美容」に関するトラブルも多いのが特徴ですが、近年は「後出しマルチ」という手法を用いて話を持ち掛けられるため、気づいた時には友人紹介(マルチ商法)と多額の消費者金融での契約という最悪のトラブルを抱えてしまう事が多いそうです。消費者金融での契約も一日で数件の契約を行い、信用情報は翌日に金融機関に出回る事を熟知し逆手にとった手法を用いているようです。悪質商法に対する社会経験が乏しい、頼まれると断れない若者世代を狙う悪質な手法だと思えます。

することは非常に重要なことであると話されました。

まとめとして、

- 契約の使い方を身近で伝えられるのは家族
- 冒険体験の共有が大事
- 日常の「振り回されない」「自分らしい消費」の成功体験が、一番の被害防止
- と締めくくられました。

講演の最後に島田氏と後藤会長が十八歳成年による問題を話される場が設けられ、

- 成年判断力が高いという訳ではないという事
- 失敗を乗り越えて判断力を高めていくという事
- 親が何でもリカバーするようになってしまうと成功体験への積み上げができず、自尊心も芽生えないという事

十八歳成年となり義務も生じるが、子どもの力を信じる事が一番大事という内容の話が交わされました。

今回の講演は、十八歳成年に関わる問題について考えさせられる有意義な内容でした。単Pにおいても、十八歳成年に対する問題意識を持つて、研修会などを開催していただきたいと思います。



島田氏と後藤会長

(坂井高校PTA会長 久保和造)

# ちよと ぶじやましくす!

Introduction

## 三国高等学校



八月三十日、三国高校へおじゃました。学校は坂井市の丘陵地帯にあり、明治四十二年開校の坂井郡立女子実業学校と大正十一年開校の県立三国中学校が昭和二十三年に統合されスタートしました。

PTA模擬店準備をしていました。メニューは「フランクフルト百五十円・手作りミニホットドック五十円」。お話を伺うと「コロナ禍以前は生徒による模擬店があり、PTAは焼きそばを販売していたが、今年度は、調理室が使用できないこと・食・調理の安全面・生徒達の食べやすさ・役員の負担軽減・次期の継続しやすさを考慮してこの形とした」とのことです。



模擬店

た。校訓は、三好達治作詞の校歌からとり「心高かれ」、教育目標は「高い意志を持って自律的に行動し、地域や社会の発展に貢献できる人を育成する」です。

PTA組織は、会長一名・副会長六名、PTA通信発行を担当する「総務委員会」・補導・部活動支援を担当する「健全育成委員会」・進路研修会、職業探究講座を担当する「進路委員会」によって構成され、副会長はいずれかの委員会に所属されています。

おじゃました日は文化祭当日でした。午前には感染症対策として広い会場をと、学校からほど近い三国体育館で開催、学校祭テーマ「Popcorn」とおり弾けるようにイベントが盛り上がっていました。PTA役員はその間に、学校



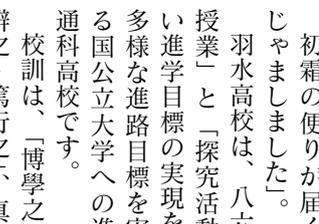
学校祭

でPTA模擬店準備をしていました。メニューは「フランクフルト百五十円・手作りミニホットドック五十円」。お話を伺うと「コロナ禍以前は生徒による模擬店があり、PTAは焼きそばを販売していたが、今年度は、調理室が使用できないこと・食・調理の安全面・生徒達の食べやすさ・役員の負担軽減・次期の継続しやすさを考慮してこの形とした」とのことです。

(金津高校PTA会長 梅田理香)

Introduction

## 羽水高等学校



初霜の便りが届く頃、羽水高校に「おじゃました」。羽水高校は、八六九名が学ぶ、「高度な授業」と「探究活動」を両輪に、より高い進路目標の実現を目指す探究特進科と、多様な進路目標を実現すると共に特色ある国立大学への進学をサポートする普通科高校です。

校訓は、「博學之・審問之・慎思之・明辨之・篤行之」、真理を追究し、学問思弁を重ねる人間育成、そして変化する社会に対応できる人間の育成を目標としており、学ぶ生徒が持つ力を最大限に発揮できるように支える場であり続けることを目指しているそうです。



強歩大会

育成会(P.T.A)の組織体制は、会長、副会長、会計、監査、学年常務委員、顧問からなる五十一名が、「総務委員会」「進路生活委員会」「広報委員会」にわかれて活動しています。

今年度は、新型コロナウイルスの影響で中止が続いていた第四十二回強歩大会に、PTA役員が久々に参加しました。九頭竜川など川沿いを歩くコースで、快晴の空の下、

この企画は、調査広報委員が直接「ちよとぶじやましくす」、伺った話の中から委員独自の感性でこれはと思われれるものを紹介していくものです。

生徒達は楽しそうな笑顔を見せていたようです。完歩した生徒達をたくましく感じるとともに、コロナ前が戻ってきている事を実感した一日であったとのことでした。進路生活委員会は進路的行事「キミノミライノカタチ」に取り組んでいます。今年度は、文理選択前の一年生に、(株)グロウプスの仕事内容や職種の話だけではなく、今後の自分のキャリアをどう描き(キャリアビジョン) どう計画をたていくのか(キャリアプラン) 話していたいたそうでした。

生徒からは、「自分の行動などを振り返り強みを増やす」という言葉が一番印象に残っています。今は実力で採用される時代になりつつあるので、これからは率先して見つけられるようにしていきたい、「キャリアプランの話聞くことができ、自分が将来やりたいことのために自分のマインドをどう変えれば良いか分かりました」などの感想があり、生徒の意識を高めることが出来る講演会だったようです。

学校祭では、総務委員会が焼きそばの模擬店を出店しました。今年度は保護者の自由参観が許可され、生徒にとっても保護者にとっても思い出に残る学校祭になったと仰っていました。学校・保護者の連携があつて、子供達のよりよい教育環境が実現すると改めて感じました。

(鯖江高校PTA会長 高橋宏介)



学校祭模擬店

# 県教育長と高P連との懇談会

県教育長と高P連との懇談会が十月十九日(木)に県庁大会議室にて開かれました。県教育委員会からは、豊北欽一教育長、松下晋也学校教育監、内田博幸副部長(教育政策)、山本寛副部長(高校教育)、遠藤正宏教職員課長、内田浩二保健体育課長の六名、当連合会からは後藤正那会長以下十四名が参加しました。

最初に後藤会長から「子どもたちを取り囲む教育環境や学校の状況は大きく様変わりし、私たちPTAも多くの面で「ひずみ」を感じる。この事に理解、認識がついていない現状で、県教委と学校、PTAが、子どもたちの未来のために情報共有し連携していくことは大切であり、今後について共通理解が深まる有意義な時間にした」と思っています。」と挨拶がありました。

続いて豊北教育長から、「近年、地域活性化への貢献や企業との商品開発など、生徒が社会に積極的に関わり自発的に活動する姿を多く見かけるようになりました。その一方、教育現場だけでは解決が難しい状況も見られます。このような新しい状況への対応のためにも、より一層、地域社会が連携し、取り組む必要があります。また、教員の働き方改革については大きく改善されていますが、引き続き、PTAの皆様のお力添えを賜りたいと思います。本日は、意見交換できる貴重な機会と考えています。」と挨拶がありました。

この後、四つの話題について意見交換がありました。

## 福井県の教育全般について

後藤会長から「新しいカリキュラムがプ  
ラスされ成人教育の必要性も高まってい

る。「生きる力」を養うための福井県の教育方針や見直しをお伺いしたい。」と話題提供がありました。

県教委からは「基本的な知識・技能を習得しつつ、困難な課題には多様な人と協働し乗り越える力の育成に取り組みんでいます。『引き出す教育』、『楽しむ教育』と呼ぶ、子どもたちが自分の個性に気付き『学び』を自ら進めていく教育を重視しており、子供と保護者と学校がスクラムを組んで教育活動を進めていくことが大事だと思えます。」と回答がありました。

さらに、後藤会長は、昨今の保護者対応や「引つ込み思案だけ内に良いものを秘めている子どもたち」に、共通理解を持つて対応していくことが大切と話されました。また、学校行事における県の指針はという質問には、豊北教育長から、「できるだけ生徒に任せ、教師はファシリテーターになり寄り添うようにと学校に話しています。」と説明がありました。

笠島慎一羽水高校会長からの「働き方改革」についての質問には、県教委から、教職員の「成長を見守ろう」という意識の定着、「教育のDX」の進展、地域の協力を得る等の改善点の説明がありました。高P連からは、「先生方の生徒への気持ちを考慮した柔軟な対応」、「子どもたちを最優先に」という要望が出されました。

## 教育環境の整備状況について

梶健太郎副会長から、特別教室のエアコン設置や、リノベ、LEDへの更新等に関して、今後の予定やPTAの関わり方について話題提供がありました。

県教委からは、整備状況資料を基に、「特

別教室は、本年度七千万円の予算で整備を進めており、約五十八%の進捗状況となつています。外壁や照明、リノベにつきましても協議しています。予算の制約上、PTAのご協力を頂けると有難い場合もあります。」と説明がありました。



子どもの安全と健康面の観点から、漆崎直光福井商業高校会長からは「体育館の空調整備」、小林輝之三国高校会長から「エアコンの温度設定」、梅田理香理事から「冬季間の暖房」についてそれぞれ質問があり、県教委から、断熱性が確保されていない建物は代替手段での対応をしていること、温度管理は二十八度を基本としながらも生徒を最優先に柔軟に対応していること、冬季間の暖房対応について説明がありました。

## ICT教育・探究活動に関する課題と今後の取り組みについて

出口岳彦副会長が、子どもたちが身に付ける力や、タブレットの活用例を含めて、それぞれの学校の取り組み、保護者としての協力の仕方等について話題提供がありました。

県教委からは、探究活動の研究課題例やICTの活用例の紹介がありました。このような活動を通して子どもたちには、問題を解決する力、コミュニケーション能力などが身に付くとされています。また、「高校生探究フォーラム」や「福井探究学習サポート企業」の説明と、保護者の、中間発表などの取り組みへの積極的参加、サポートのお願いがありました。

高村昌裕監事からの「学びの在り方」や、

## その他(様々な教育・校則・部活動など)

前田副会長から成人教育や部活動の地域移行についての話題提供がありました。これに対して、県教委からは、外部機関と連携したサポートとガイダンスを提供する体制整備の取り組みと家庭内の会話の大切さについての説明がありました。また、部活動の地域移行について、高校の魅力化の一つが部活動であり現段階では考えていないとの回答がありました。

中出奈津枝丸岡高校会長からは、生徒対応についての意見があり、後藤会長からは、「様々な教育は全て繋がっている。市町とも連携しての取り組みをお願いしたい。PTAとしても、試行錯誤の中で子供たちの成長を見守っていきたくと考えているのでご支援を頂きたい。」と話がありました。最後に前田副会長から、謝辞、挨拶がありました。

## 今後の行事予定

### ◆第三回理事会

日時 一月二十日(土) 午前十時半～

### ◆各校PTA会長・担当者合同会議

日時 一月二十日(土) 午後一時半～

場所 午前、午後とも生活学習館

### 高校生総合保障制度 事故受付状況と保険金請求手続きについて

二〇二三年も終わりに近づき、高校生総合保障制度につきましても、数多くのご請求やお問い合わせが保護者の皆さまから当事務局へ寄せられております。今回は昨年度の事故受付状況と保険金請求手続きについてご案内いたします。

#### 一、事故受付状況について

二〇二二年四月～二〇二三年三月までの直近一年間の事故受付状況ですが、事故累計で七十四件お支払い致しました。内訳として、支払件数が多いのは通院補償二四八件、入院補償のお支払いが二三三件となっております。事故の内容で、最も多いのは、昨年は新型コロナウイルス感染症に伴うお支払いとなっており、次いでスポーツ中の事故となっております。

この保障制度では全プラン、学校から貸与されたタブレットの破損による法律上の損害賠償責任も補償対象となっておりますが、具体例として、今年度自転車通学中タブレットを破損され保険金をお支払いしたケースなどがあります。最後に、**福井県自転車条例に対応しておりますので、当制度の加入をご検討頂ければ幸いです。**

#### 二、保険金の請求手続きについて (ケガ・病気・賠償事故の場合)

下記連絡先(0120-3001399)(通話料無料)・二四時間受付)まで、お手元に加算者証をご用意の上、ご連絡ください。

#### ○中途加入に関するお問合せ先

高校生総合保障制度事務局  
株式会社アイル保険センター

〒910-0003

福井県福井市松本4丁目6番15号

TEL: 0776-12313419

(受付時間: 9時～18時 土、日、祝日、年末年始除く)

保護者の皆様へ 2023年度版

## 福井県高等学校PTA連合会

適用される割引率※

15% 割引

# 高校生総合保障制度

## ご案内

[こども総合保険+自転車総合保険]

学校の  
休みの日でも

大切なお子さまを補償期間(保険期間)中、**1日24時間補償します**

ただし、一部の補償は24時間補償ではありません。

- 全プラン、学校より貸与されたタブレットの破損も補償されます。
- 全プラン福井県自転車条例に対応しております。

※随時中途加入を受け付けております。

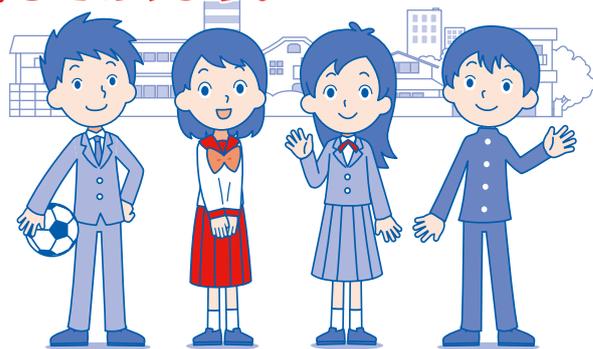
自転車事故等による損害賠償責任も

### 国内無制限補償! (S-SWプラン)

示談交渉サービス\*付き!

\*示談交渉を行う場合は、被保険者および被害者の同意が必要です。国内のみのサービスとなります。

小学5年男子児童の自転車衝突で母親に  
約9,520万円の賠償命令(神戸地裁判決)



### 扶養者の方が事故で万一の際に 育英費用を補償

高校3年間と大学等の合計で、  
約943万円の教育費がかかります!

出典:株式会社日本政策金融公庫「教育費負担の実態調査結果」(令和3年度)

### 簡単支払特急便

スピード対応 お電話一本で手続き完了

ケガによる入院・通院、病気による入院・手術で  
10万円以下のご請求は、電話による事故報告のみで  
保険金をお支払いします。

プランによって補償項目が異なる場合がありますので、詳しくはパンフレットのプラン表をご確認ください。

※割引率について:パンフレットで案内している保険商品の算出基準である保険料(加入者数20名未満の団体における保険料)に対しての割合を示します。適用される割引率は前年度の加入者数等に応じて決定します。

引受保険会社: AIG損害保険株式会社